

評論文読解のための道具

国語の入試問題には大きく2種類の文章が出題されます。「評論文」と「小説文」です。「評論文」とはざっくり言えば説明文みたいなやつで、「小説文」とはいわゆる物語のことです。

そして今回、このプリントでは「評論文」を読む際に活用する5つの道具についてお話します。

定義（ていぎ）

1. 筆者独自の言葉の説明
2. 知らない言葉の説明

抽具（ちゅうぐ）

抽具＝抽象＋具体

- 抽象：まとめ
- 具体：細かい説明、専門的な説明

★抽象→具体→抽象の流れがよく出る

疑問詞

1. 単純な疑問「～だろうか」
→疑問を見つけたら答えを探す
2. 反語「～にだろうか（いや、～ではない）」
→反語を見つけたらそれが主張

接続詞

1. 同格 (=の関係) : つまり、言い換えると、要するに、同じように、すなわち
2. 対比 (⇔の関係) : しかし、けれど、一方で、異なる、反対に
3. 因果 (→の関係) : だから、よって、故に、～のために

数値

例1) 「はじめに」「次に」「最後に」

例2) 「1つ目に」「2つ目に」「3つ目に」

例3) 「アメリカでは」「中国では」「日本では」

補足

筆者の主張を理解するのに活用 : 定義、抽具、疑問詞

→ 難しい文章でも、スラスラ理解できるようになる

文章の展開を予測するのに活用 : 接続詞、数値

→ 文章の展開が予想できるようになるので、読むスピードが上がる

→ 読むスピードが上がると、単純に時間の節約になるし、「前に書いてあったことを忘ちゃう」が減る